令和４年度学校だより

善誘館

No. 2

甲府市立善誘館小学校　校長室

校　訓　「善行・勤勉・体育」
学校教育目標
○　思いやる心をもつ子
○　よく考え工夫する子
○　元気でたくましい子

２０２２．５．１６

☆学校雑風景☆

５月があと少しで終わります。新年度からはまだ二ヶ月ですが，２０２２年はもう三分の一が過ぎたことになります。さて，「一年の計は元旦にあり」新しい年明けとともに，子供たちはどんな夢を描いていたのでしょうか。そして，その夢に向かって毎日過ごすことができているでしょうか。自分が子供の頃，そんなことは頭の片隅にも残っていなかったように思います。「次の祝日はいつだろう(笑)」などと考えずに，ゴールデンウィークを終えた今，ここで一段ギアを切り替えてみませんか。そのためには，大人の導きが不可欠です。どうぞ，お子さんに元気の出る一言をお願いします。この一年はまだ三分の二も残っています。

巷では「コロナ疲れ」「コロナ慣れ」などという言葉をよく耳にするようになりました。同時に『新たな変異株』と称する言葉とともに，再び感染者が増えているニュースばかりを目にします。学校の過ごし方についても御心配をいただくことがあると思いますが，国が示す新しい生活様式，県や市が定めたマニュアルに沿って教育活動を進めていきます。あわせて「あたり前のことをあたり前にできる」子供を育てられるよう努めて参ります。『あたり前の行動』は，何も感染症対策に限ったことではありません。名前を呼ばれたら返事をする，挨拶をする，言葉遣いに気をつける，世の中のきまりを守る（学校にあっては『学校のきまり』）人に親切にする，自分を大切にする・・・・。数え上げたらきりがありません。こうしたことを学ばせたり，諭したりしていきます。これは，学校で学ばせる分野もあれば，家庭が受け持つ部分もあると思っています。自転車の乗り方，お金の使い方，ゲームをする時の約束などは，家庭教育の範疇だと思っています。一方集団で学びを共有する中で子供を成長させるのは，学校の得意分野だと思っています。しかし『あたり前の行動』の多くは学校とか家庭とか関係なく身につけさせたいものです。そういう意味でも保護者の皆様とは子供を中心として同じ方向を向いていたいと思います。少し気取った言い方をするならば，子供の教育に関して家庭とは同じベクトルを持っていたいと思います。

児童会活動の紹介!(^^)!

小林来望児童会長を中心とする今年度の児童会は，５月１２日（木）に第１回の児童総会を開き今年度の児童会活動の方針について討議しました。（本来ならば３年生以上全員が参加して行うのですが，感染拡大防止のため，今回は代表者の参加による総会となりました）

その結果児童会テーマは『キラ～ンとハートは♡光ってる！』と決まりました。児童会の考える『キラ～ンとハートは♡光ってる！』とは・・・
「みんなの笑顔が☆キラ～ン☆な学校」「みんなの思いやりの心が☆キラ～ン☆な学校」「みんなの心が☆キラ～ン☆な学校」であり，それを実現するための具体的な活動として，
「みんなの笑顔が☆キラ～ン☆な学校」にするために①あいさつ運動　②たてわり活動　③児童集会（ﾄﾞﾘｰﾑ ﾂｱｰ）の活動を実施する。
「みんなの思いやりの心が☆キラ～ン☆な学校」にするために，
①地域との交流　②助け合い運動（募金，書き損じはがき）の取り組みを行う
「みんなの心が☆キラ～ン☆な学校」にするために，
①無言清掃　②愛校・愛町作業　③決まりを守る取り組み　④毎月の生活目標
を実施する。と総会で決議されました。みなさんガンバってくださいね(^_^)v

☆冬のヒマワリ　　「不思議」を大切に　　～校長雑感～

大学生の息子がまだ小学生のとき，学校からもらってきたヒマワリの種を冬に植えようとしていました。「冬だから咲かないよ」と教えても「やってみないと分からないよ」と言って大事そうに植えていました。

２月になり「お父さん，咲いたよ！」と得意気な息子。寒空の下，背は低いのですが見事に花が開いていました。聞くと，水やりをしながら世話をしていたそうです。冬にヒワマリが咲くなんてありえないと思っていた私は，既存の知識だけでものを言ってしまったことを恥ずかしく思うとともに，ヒマワリの生命力の素晴らしさに驚かされました。そして，息子の植物への好奇心や探究心を大切にしたいと思いました。

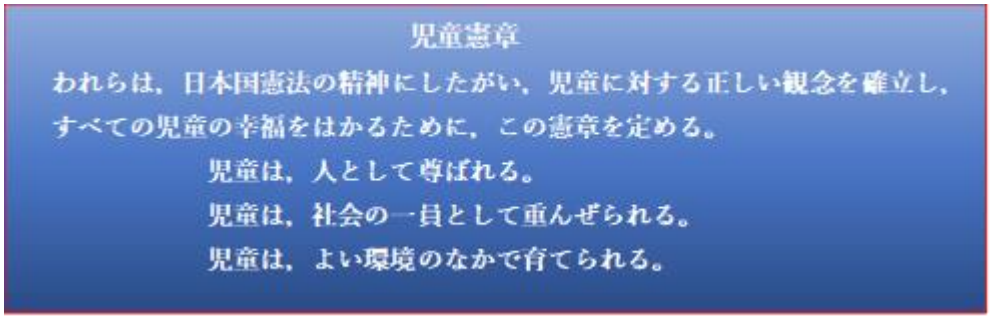
理科は算数と同様に，他の教科と比べると人気がない教科といわれています。「理科離れ」という言葉をよく耳にします。私も学生時代，原子記号を覚えたり，密度や仕事量を計算で求めたりすることに頭を抱えた記憶があります。理科離れの原因は，子供たちを取り巻く環境の変化など様々な点が挙げられていますが，小学校段階での“理科”や低学年での“生活科”の中に，本当の意味の「学び」がたくさん詰まっていることは確かです。

生活に結びついた環境の中で，経験を積み重ねることこそが，子供たちの知的好奇心や探究心を育む大切な学びの基盤になると考えます。近所の公園や道ばたで，「あれっ！」「何だろう？」と不思議に思い，「面白い」「すごい」と感じる心をもっていることが出発点です。そして，そこには子供の気付きや発見に「本当だ」「よく気付いたね」と寄り添ってあげる大人の存在が不可欠です。

息子の言葉を借りれば，学校は「やってみないと分からないこと」があふれている場，言いかえれば「やってみたいこと」があふれている場でありたいと考えます。子供のつぶやきや行動から心の動きを読み取り，価値あるものへと意味付けていくことが教師の大切な役目の一つです。子供の「不思議」に寄り添える学校づくり，教員集団づくりを善誘館小学校は目指していきます。

☆知っていますか「児童憲章」☆

子供は，地球の未来をつくる大切な存在です。戦後，すべての子供たちの幸せを願い，どうしたら幸せになれるのか，大人たちが集まって考えました。そして１９５１年５月５日の「こどもの日」に，「児童憲章」という「子供と大人の大切な１２の約束」を制定しました。法律ではなく児童の福祉を図るための国民的約束（規範）であるため法的拘束力はありませんが，児童福祉や教育に対して施すべき対策を考える上で，今でも基本となる原則となっています。



：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：学校の様子より：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

☆1・2年生　春の校外学習（遊亀公園附属動物園）

○５月１１日（水）に善誘館小学校の春の校外学習の先陣を切って，１・２年生が「遊亀公園附属動物園」に行ってきました。
児童にとっては馴染みのある場所ですが，学校の友達と行くことにより新たな発見や驚きをたくさん味わってきました。
校外学習では，一つ進級して先輩になった２年生が，自分たちで決めたきまりをしっかり守り，１年生の面倒もみることができ，とても頼もしい成長ぶりが確認できました。
実りの多い校外学習が実施できました＼(^O^)／。